

「 さ さ え 」

2023年4月発行 情報誌 第83号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所:福岡県田川市伊田 4395(福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyogunet@sage.ocn.ne.jp

URL <http://npofukusiyogu.sakura.ne.jp>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 ヨシミ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます。

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします。

NPO福祉用具ネットの主な事業は、研修事業とものづくり支援です。

発売中の開発協力品

アイクオーク(株) 発売中
詳しくは、HP参照下さい!

前面吸気タイプ
SIGNAGE
サイネージ

除菌装置



揺動ベッド



きのこグリップ

(有) ラック発売中

NPO福祉用具ネットは、抱え上げない介護技術を推進します。令和2年度・3年度福岡県ノーリフティングケア普及促進事業を受託!



洗髪シャワー

NPO福祉用具ネット開発品第1号

【製造元】(株)福祉SDグループ

【販売元】キヨタ(株)発売中

これまでの開発協力品 (現在は製造中止)



アルファプラ
ソラクッション



尿吸引ロボ「ヒューマニー」



特定非営利活動法人

NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい…」

緊急特報 (ユメル君とばあちゃんのびっくり会話は、今号はお休み)

ノーリフティングケアの本質を見た！

NPO福祉用具ネット 副理事長 坂田 栄二

「ノーリフティングケア」を広めたい

当NPO福祉用具ネットでは、設立当初から、「抱え上げない・持ち上げない・引きずらない」ための注目のノーリフティングケア技術の普及に努めている。

習得を目指す人を九州全域から募集し、1年間掛けてみっちり10科目に分かれたケア技術研修を受け、その後、卒業のための認定試験で審査され、合格すれば【技術認定者】として登録される。

認定試験では、どれだけ技術をマスターできたかを講師陣に確認してもらう、いわゆる実技試験ですが、この実技にはケア技術に加え、介護手順や使用する用具の特徴、操作方法、注意点などを他の人に伝える話術ができる伝道師としての技量も審査される。



そして、認定証を頂いた後は自分の所属施設や地域で普及させる活動をするようになる。

この「技術認定試験」は、1年に1度限りの開催で、受験資格も研修の全日程を受講したものに限られるほどの極めて厳格な試験だ。1年かけて勉強しても受験チャンスは1回しかない、やり直しの効かないものなのだ。

松葉杖をついた研修者

そんな技術認定試験の大事な日に、松葉杖を使って2時間かけて試験会場の福岡県立大学までやって来た若者がいた。彼は、みやま市のレンタル事業所の(有)サンステップ職員、「山田君」である。

「ノーリフティングケアをマスターして、福祉用具を適切に使って、無理のない介護ができるよう広めたい」との一途の思いから受講していた。

彼は試験の受付係の前に来るなり、

「すみません。膝を痛めてしまい、松葉杖がないと立てませんので、今日の試験は諦めます。・・・でも、どんな試験をするのか見学だけでもさせてください。・・・(ちょっと間を置いて)・・・来年頑張ります・・・」彼は悔しそうに小さな声で申し出てきた。

ズボンを透かして判るぐるぐる巻きの膝の包帯と松葉杖のただならぬ様相に、大山事務局長は事態をすぐに飲み込んだ。特別に試験時期を繰り延べすることは、できない。もう試験は開始間際。

「いいよ、しっかり見て来年に備えようね！」これが、事務局長が言えた唯一の言葉だった。

それを聞くなり、彼は、ゆっくりとした間隔で、“コツン…、コツン…”と松葉杖の低く乾いた音を立てながら10科目試験の各教室を回り始めた。

「自分の不注意です。」とはいうものの、合格を目指した1年間の努力が水泡と帰した無念さは、松葉杖を運ぶ音に表れていた。

試験受けてもいいですか？

各教室での試験は無情にも開始されている。ところがである！！

30分ほどすると、彼が受付に戻ってきて、「試験を受けたいんです。受けてもいいですか？」大山事務局長は、後ろにのけぞるかのようになり返って彼を見上げたまま、

「え～っ？……」

と口に手を当て絶句し、“この子はどうやって試験を受けるのだろう？そんな体で無理しなくても来年があるのに……”



この時、事務局長は親心が先に立ち、まだノーリフ

ディングケアの本質に気づいていなかった。

しかし、彼は試験の様子を見て回るうちに、“松葉杖でもできる！”という確信を持ったのだろう。

「いいよ！頑張りなさい。」

彼の真剣な顔つきをみて、事務局長は、“止めることはできないだろう、今回の試験の雰囲気だけでも知ってもらい、来年に備えればよい”と考えての決定だった。

出来ぬと思うことが出来た

私は心配になり、こっそりと試験会場を覗きに行った。スライディングボードの会場だった。

彼は、床に松葉杖を置いている。そしてベッド横の車いすに向かい合わせになる位置に普通の椅子を置いて座っている。

続いて利用者役の人に技術説明を行い、座ったままで利用者役の人をベッドから車いすへ滑らせた。無事着地。座り直し、姿勢を正して「終わります。」と力強く。試験会場の入口の外で見守っていた同期生たちは、思わず手を叩いて「すごい〜。」の音が。

審査官の「良かったね！」の言葉で、彼の緊張した顔が緩んだ。

試験は2日間のうちに10科目クリアすればよいので、1日で5科目を目指して計画的な対策をとっている人もいる。そして合格すれば、手を取り合って涙を流す人もいる。走って、受付まで報告に来る人もいる。

全部合格したぞ！

2日目の正午前になり、彼が受付へやってきて、「10科目全部終わりました。」

と報告に来た。やり遂げた晴れやかな顔で。

その時の松葉杖は、昨日の朝のゆっくりとした「コツン」から、ピッチの早い「カツン、カツン…」に変わっていた。彼の心の喜びの音である。



私は講師陣に「手心を加えたか？」聞いて回った。

大分から来ていた講師は、「とんでもない。人の命を預かり生活を変える介護技術はそんないい加減なものではありません。」ときっぱり言った。

しかも九州各地から来ている講師陣は、彼とは初対

面で彼のことをよく知らない。手心を加える余地はな



かった。この認定合格は、ほんまもんですやん。

福岡県ノーリフティングケア普及促進事業では、福岡県内を4地域に区分けし、それぞれに地域連絡協議会がある。

彼は、その1つの筑後地域連絡協議会に所属するモデル施設の悩み・相談に乗り、ノーリフティングケアの普及を支えており、また多くのモデル施設が彼を慕っている。



私は、彼に、

「体が不自由でも、力が弱くても介護ができることを証明してくれた。このことをぜひ広めてくれ」とお願いしている。

ノーリフティングケアは、腰に負担をかけないという点から腰痛対策として取組む施設が多いが、抱え上げないのだから、膝や足関節が悪くともケアができることも示しており、老々介護で途方に暮れている方でも介護ができる・・・ノーリフティングケアの本質は、そんな大きなパワーを秘めている。

先日、彼の所属するレンタル事業所の三栗野常務さんとお話する機会があった。

「彼は、この事業で大きく成長しました。すごく楽しみです。どんどん彼を使ってください。」

うれしいお言葉だった。

NPO 福祉用具ネット事務局所在地 田川市伊田4395と私

NPO 福祉用具ネット理事 左 広美

皆さまご無沙汰しています。左広美です。この度、2023年3月を持ちまして福岡県立大学（所在地：福岡県田川市伊田4395）を退職することとなりました。この場を借りて皆様にはお世話になりましたこと感謝申し上げます。

NPO 福祉用具ネットの事務局はご存じのように福岡県立大学の校舎の一角にあります。私はこの大学の所在地である福岡県田川市伊田4395に39年間通い続けました。現在60歳の私です。人生の三分の二の期間、ここ田川市伊田4395に通い続けたことになります。なぜ、福岡県立大学と言わずに「ここ」というのか……。今回は、「ささえ」の紙面をお借りして「ここ」での39年間をお披露目させてください。

田川市伊田4395その1 花の女子短大生

私は、福岡県立大学の前身である福岡県社会保育短期大学保育科の卒業生です。1981年4月、満18歳の春に入学し私と田川市伊田4395のお付き合いが始まりました。この2年間の学びに大きな影響を受け今の私があると思います。短大の先生方の中には、産炭地域の社会福祉、児童福祉に強い関心を持ち深く研究をしている先生が何人もおられました。産炭地域の子どもの育ちの課題について教授たちが熱く語られていたことがとても心に響くとともに、「私って産炭地域の子もだったんだ！」と気づかされたのでした。1962年生まれの私が短大生だったころには、産炭地域という言葉は耳慣れないものでした。私は、田川で生まれ育ち土門拳氏の「筑豊の子どもたち」と呼ばれ育ったはずなのに、自分が産炭地域の子もであったことを短大生になるまで気づかなかったのです。短大での学びが進むにつれて……。

「そういえば、小学校に入学したときは4クラスあったのに、卒業時は2クラスになっていたなあ。ということは2クラス分のお友達がいつの間にか、どこかに引っ越したんだ！仲良しだったHちゃんがある日、突然お引っ越しして、悲しかったなあ。」

「大好きなイトコ家族、3家族が愛知県豊田市に引っ越していき寂しくて泣いたんだ。」

「隣の家と壁ひとつで隔てられている密接型の炭住にあこがれて知り合いのお姉ちゃんの家泊まったけど、トイレが怖くてもう二度と行きたくないって思ったんだ。」等々、

……ジワジワと「筑豊の子どもたち」であった自分の子ども時代を思い出したものです。

そんな記憶がよみがえりながらの学生生活。ケンケ

ンパーをしながらパチンコ中の親を待っている様子を毎日見かけながら通学しました。筑豊の子どもたちが抱える課題はまだ解決していないのかも……。短大を卒業したら筑豊にご恩返しで保育者として働こうと決めた短大生でした。

田川市伊田4395その2

福岡県社会保育短期大学附属幼稚園教諭

筑豊で働くことを決めた私でしたが、あのころは今では考えられないほど、保育者は就職難でした。やっと採用してもらえたのは民間保育園のパート保母さん。その後も臨時保母を転々とし、なかなか定職につけませんでした。紆余曲折して1987年4月に母校である福岡県社会保育短期大学附属幼稚園で教諭として働くこととなりました。年間110人以上の実習生を受け入れながらの保育はなかなかハードなものでしたが、やりがいがあり楽しくとても充実していました。ある朝、園児を受け入れるために保育室へ向かいながら「なんて幸せなんだろう、こんなに楽しいのにお金がもらえる！」とつぶやいたことを鮮明に記憶しています。それほど楽しい時代でした。

田川市伊田4395その3

福岡県立大学附属幼稚園教諭

短大在学中から私たちは「短大では学びが浅すぎる、もっと深く学べるように社保短は4年制大学になれる」といふのに語り合っていました。その思いは叶い、短大は1993年4月に4年制大学の福岡県立大学に生まれ変わりました。必然的に私の所属先名は福岡県立大学附属幼稚園と変更となりました。が……所在地は同じです。所在地はその3のステージになりました。このころになると、世の中は「少子化」が叫ばれ始めました。幸い、附属幼稚園は少子化の影響はさほど受けることなく定員を満たしていました。一方で、4年制大学になったばかりの数年間、保育者を目指す学生が減りました。学科名が人間形成学科となりその名称からは「保育者養成」がイメージしづらく認知度が低かったことなどが影響したのかもしれませんが。次第に世の中は少子高齢化が言われ始め、高齢者の福祉に世の中が注目するようになりました。また、介護保険開始が迫ってきていました。そのころに、附属幼稚園閉園の話がどこからか持ち上がってきました。附属幼稚

園を発展的改組して「生涯福祉研究センター」として再出発する話が持ち上がったのです。人の生涯にわたる福祉を研究するセンターが誕生しようとしていました。生涯にわたる福祉なので、もちろんそこには子どものことも含まれているということでした。「発展的改組ならば、そこで子どもの福祉について先生方と一緒に研究していける」と、前向きな気持ちになり閉園の寂しさを感じている暇はありませんでした。

その時に、ある事件が起きたのです。

私は附属幼稚園最後の園児・年長児クラスを担当していました。ある日の夕方、担任していた年長男児が家から一人でいなくなりご家族が探し回っていると一報が入りました。事件や事故に巻き込まれたのではないかとドキドキしました。すると、一人で附属幼稚園に向かって歩いている男児を家族が発見し無事保護。お母様が本人になぜ一人で出歩いたのか事情を聴くと「幼稚園がなくなるんやろ、中藤先生（旧姓）はどうなるん？」と心配になったとかで、その確認をしようと幼稚園に向かって歩いていたと答えたそうです。

その時、私は初めて子どもたちに申し訳ないことをしている、私が前向きな気持ちになっていることは子どもたちへの裏切りではないかと胸をいためました。気づくのがおそかったです。しかし、時はすでに遅し閉園は目の前に迫っていました。そこで子どもたちに「附属幼稚園はなくなるけど、中藤先生はいつもこの建物にいるから大丈夫。遊びにおいでね。」と約束しました。それから、私の田川市伊田 4395 はさらに続くこととなりました。

田川市伊田 4395 その4

福岡県立大学生涯福祉研究センター

1998年4月に生涯福祉研究センターは開所しました。そのセンターの大きな事業の一つとしてNPO福祉用具ネットと関わり深い「福岡県立大学福祉用具研究会」が立ち上がりました。研究会の立ち上げを知ったのは・・・たしか・・・1998年の3月頃だったと思います。つまり附属幼稚園閉園の直前です。閉園事業で大忙しの中、また自分の大切な職場が大きく変貌しようとしている緊張感の中、ある日突然「4月からの仕事は福祉用具研究会の事務ね」とある方から聞かされました。しかも、学内ですれ違いざまに言われ、「なんのこっちゃ？！初耳なんです？！」と面食らったことを覚えています。いきなり言われたものですから、小さな反抗心が沸き起こり第1回目の研究会はPass1回目を発動し、その日の夕方は小倉のデパートへでかけました。懐かしい思い出です（退職した今だから言える）。第2回目の研究会から参加した私は、大きなカルチャーショックを受けました。皆さんが交わす福祉や医療に関する言葉の意味が全く分からないのです。「OTって

なん？」「PT？」「MSW？」、わからない言葉ばかりで社会福祉用語辞典を購入し聞きなれない単語を索引したのです。最終的に生涯福祉研究センターでは①福祉用具研究会、②ペアレントトレーニング、③おもちゃ図書館、④足と靴の相談室、などを担当しその他の期間限定の研究プロジェクト（例えば、生活保護自立に関する研究）に携わりました。②と③は子どもの発達支援に関することなので、自分ももっぱらとする領域と重なっており、良い意味で肩の力を抜きながら働くことができました。一方で①と④は共通言語がほとんどない未知の領域でした。福祉用具研究会の飲み会の席などでは小さな子どもが反発するように毎回「専門は幼児教育で福祉用具のことにしては事務局担当をしております」と言っていました。ずるい考え方ですがいつでも逃げられるように非常口を設けているようなものでした。しかし、ある時、研究会会員の松尾清美先生から「中藤さん、もう何年この研究会に携っていますか？もう、専門ではないとは言えませんよ。」とゴンッと杭をさされて非常口から逃げだせなくなり腹をくくった瞬間を今でも鮮明に記憶しています。

そのおかげで両親の介護が始まったときに、いろいろな知識が役立ち、優しい仲間たちに助けていただくことができました。福祉用具研究会の活動は私の人生を支えてくれました。感謝しています。

田川市伊田 4395 その5

福岡県立大学人間社会学部人間形成学科心理コース

新型コロナウイルスが世界を襲った2020年の4月以来、福祉用具研究会は休会となりその翌年2021年3月末をもって生涯福祉研究センターは閉所となりました。コロナ大流行のどさくさの中、私の所属先が大きく変化したのです。てっきり生涯福祉研究センター所属のまま定年を迎えるであろうと思い込んでいたのですが、違いました。私の所属先は人間社会学部人間形成学科の心理コースとなったのです。私の専門性からいうと同学科のこどもコースなのですが、センターで携わっていた「ペアレントトレーニング」が院生の実習の場でもあるということから心理コース所属となりました。理由はそれだけではなく、他に大人の事情があったのかもしれませんが。そこで、私は2年間所属してこのたび任期を5年残して定年することとなりました。

このように、私は短大生だったころから通算39年間、この地、伊田 4395 番地に通い続け、数年から10年程度のスパンで所属先の名称が変わり、少しずつ業務内容も変わってきました。こうして定年を迎えようとする今、「私はどこに所属していたんだろうか」とか、「何をやってきたんだろうか」とかあれこれ振り返る機会がありました。そして出せた結論は「福岡県立大学を定年退職するけれど、私がすごした39年間は田川市伊

田 4395 だった」ということです。

附属幼稚園の先生だった私が、「福祉用具研究会だったり、足と靴の相談室だったり、いったい何をしているんだ」とご指摘を受けたこともあります。大学は各自の専門分野がはっきりと区分されている職場です。そういったご指摘があって当然だと思います。附属幼稚園が発展的改組された生涯福祉研究センターでは大学の先生方の研究を地域と結び付けるお手伝いが私の使命の一つでありました。

一見すると幼稚園の先生とこれらの事業の共通点は

見えづらいのですが、私の原点である社会保育短期大学での学びが共通項目を教えてくださいました。社会福祉と人権擁護の視点です。この視点を軸にして39年間を過ごしてきたことは私の誇りです。

4月からは県立大学の非常勤講師をしつつスローペースで子どもの発達支援や保育現場支援に絞り込んだ仕事に携わります。これからは一番やりたかったことを最優先できます。

皆さま大変お世話になりありがとうございました。

皆様の今後がますます穏やかな暮らしとなりますようにお祈りいたします。

令和4年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業 取組証書授与式 2023.2.15



3期生新規取り組み施設代表
北九州地域
特別養護老人ホーム 石並園様



1期生 アドバイザー施設代表
筑豊地域
介護複合施設ひばり様



2期生 メンター施設代表
福岡地域
特別養護老人ホーム なの国様

令和4年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業
2月15日 実践報告会にて取組証書授与



令和4年度取り組み実践報告
事業の概要報告・特別講演・モデル施設報告
・講師見習い体験報告・地域連絡協議会等40件の紹介



福岡県のホームページにて、報告動画配信中

『福岡県ノーリフティングケア普及促進事業』で検索♡

令和5年度も福岡県ノーリフティングケア普及促進事業は続きます。皆さんの職場にノーリフティングケアを導入しませんか!

迷っている方、是非、県のホームページを覗いてみてください。先輩施設からの声が聞こえてきますよ。

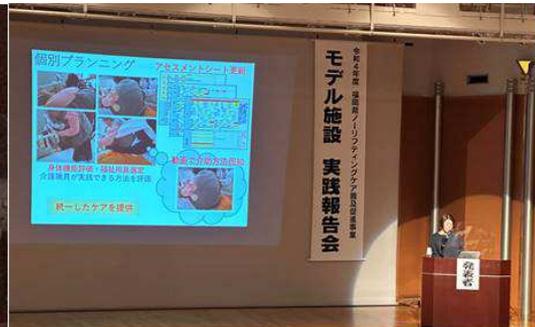
令和4年度福岡県ノーリフティングケアの普及促進事業 実践報告会を開催!

福岡県に、35のモデル施設が誕生いたしました。



特別講演 管理者の立場から
ふじの木園 須藤施設長

発表



特別講演 実践者の立場から
誠光園 作業療法士 中武氏



取り組み報告 2期生
アルテンハイムヨコクラ



取り組み報告 3期生
次郎丸の里

令和4年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業 3期生 新規取り組みモデル施設



石並園 初花 宝珠の郷 朝老園ひさみつ 能古清和園 つくも苑
次郎丸の里 ほ乃ほの園 はくりゆう園 八女の里 若久シニアビレッジ
天神会複合施設 ちくご船小屋

令和4年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業 1期生 アドバイザー施設



ふじの木園 誠光園 風の家 明日香園 介護複合施設ひばり
本陣園 さわら老健センター ねむのき 仙寿苑・はまぼう
常照苑くすのき通り 桜の丘

令和4年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業 2期生 メンター施設



みやこの苑 足原のぞみ苑 博愛苑 ひまわり園 ことぶきの森 くぬぎ苑
フレンドビーチはや なの国 三丁目の花や 常照苑サンシャイン
アルテンハイムヨコクラ



事務局だより

◀令和5年1月から3月までの事務局のうごき▶

◇令和5年1月

情報誌82号発送

報告スライド作成支援 毎日

腰痛調査や抱え上げの調査のまとめ

施設の概要のまとめ

実践報告会に向けた報告書の編集・発行

報告冊子のデザインなど

実践報告会開催準備

1月2日 施設調査の整理

1月3日 腰痛調査集計

1月4日 フォローアップ研修

1月5日 フォローアップ研修

1月6日 フォローアップ研修

1月7日 フォローアップ研修

1月10日・11日・12日・14日

地域連絡協議会リーダー会議

1月13日 スライド作成支援 Zoom

1月17日 開発会議

1月24日～27日 第6回地域連絡協議会

◇令和5年2月

動画収録の支援

実践報告動画公開準備

2月14日 県庁

2月15日 実践報告会クローバープラザ

2月15日 令和4年度実践報告会

2月20日 開発会議

2月21日 開発相談

2月22日 開発相談

2月24日 開発相談

報告会のアンケート入力作業

筑後地域展示会の手配

◇令和5年3月

報告動画公開

会計処理

筑後地域展示会の企画の支援

4年度県事業の報告書作成

次年度の事業計画作成

3月15日報告書提出

3月7日 開発相談

3月8日 筑後地域打ち合わせ

3月23日 開発相談

情報誌83号発行準備

4月からの予定

情報誌発送

4月6日 筑後地域打ち合わせ

4月18日 北九州地域連絡協議会

4月25日 福岡地域連絡協議会

福岡県ノーリフティングケア普及測人事業 令和4年度事業報告提出



令和5年度も事業の受託決定♡

- ① 新規取り組み施設公募もまもなく開始
- ② 地域連絡協議会の主体的活動支援
- ③ 3期生の2年目指導者育成コース実施
- ④ 講師育成も継続
- ⑤ 実践報告会

2023年度

NPO福祉用具ネット会員募集のご案内

1月より、新年度(2023年4月から)の会員更新手続きのお願いと新規会員様を募集いたします。

現会員の皆様には、引き続きご支援をお願いいたします。

個人会員

入会金 1,000円

年会費 4,000円

団体会員

入会金 2,000円

年会費 30,000円

令和5年度通常総会開催のご案内

日時 令和5年5月20日土曜日 13時30分～

方法 オンライン開催

議案 1 令和4年度事業報告及び決算報告

2 令和5年度事業計画案及び予算案

3 その他

出欠届・委任状については、4月の情報誌とともに郵送。出欠届締め切りは5月15日17時